

JSCA 賞応募のお誘い

2021年7月1日

JSCA 賞委員会委員長

山田憲明

JSCA 賞の意義

構造技術者はプロジェクトにおいて、性能・コスト・使用性といった構造に課せられた設計条件を満たすだけでなく、時に創造性と革新性あるいは緻密さや柔軟性を持った構造設計や技術開発等によって建築の方向性を決定づけます。こうして得られた建築的な成果や実現させた構造技術者の功績は建築界のみならず社会に広く共有されるべきで、そのために最も有効な方法が表彰制度です。

JSCA 賞は構造技術者を表彰する国内の賞として最高峰に位置するもののひとつです。今回で33回目を迎えますが、過去の受賞者の多くは受賞をきっかけに社会に広く認知され、その後の飛躍にも繋がっています。

選考の考え方

作品部門は、まず1次審査として書類審査を行い、通過した作品について現地審査を行います。現地審査は応募作品の説明を受け、視察した後、十分な時間を設けて質疑応答を行う予定です。作品自体の出来栄ももちろん重要ですが、現地審査では、作品の設計プロセスにおいて何を考へどのように判断したか、応募者個人が作品にどれほど貢献しているかなどを細かく審査します。質疑応答の流れによっては深く掘り下げた議論に至ることもあるのでしっかり準備をしてください。全応募作品の現地審査が修了した後、応募書類や現地審査の内容をふまえて最終審査を行います。作品部門には「作品賞」「奨励賞」「新人賞」がありますが応募時点では区別なく受け付け、最終審査でどの作品をどの賞にするかを決定します。

業績部門も1次審査として書類審査を行った後、ヒアリング審査を行います。ヒアリング審査では作品部門の現地審査と同様に質疑応答で深い議論を行うことが想定されますので、説明の準備をお願いいたします。

さいごに

構造技術者は日々、それぞれが置かれた立場や環境の中で、構造設計や技術開発を行っています。その中で関われるプロジェクトの規模やかけられるコストの大小は存在しますが、どんなプロジェクトであっても構造技術者個人の創意工夫の機会には平等に存在すると考えています。大きなものから小さなものまで、斬新なものから小さな工夫を積み重ねたものまで、パウンド・フォー・パウンドの考え方で構造技術者と作品を評価します。そのためには多角的な視点に基づく選考が必要で、豊富な実績と多様な経験を持つ選考委員が行います。仮に受賞に至らなくとも、作品についての整理や選考委員との議論は、必ず応募者の今後の糧になります。ぜひ日々の創意工夫の成果を我々に見せてください。そしてこれからの建築構造と構造技術者の発展に共に貢献していくことを願います。